

あーあ…今日も仕事 遅くなっちゃった…
はあ……あれ？



.....吉崎さん？



「あ帰ってきた…
おかえりなさい」

あはい…

こんな時間にどうしたんですか？



「また…おかず作りすぎちゃって…
おすそ分け…食べますか？」

えっ…

わわっ ありがとう吉崎さん！
今からなんですごくありがたいです



この人は吉崎さん

隣の部屋に住むとってもキレイで清楚なお姉さんだ…

時々こうやって作りすぎたおかずをおすそ分けしてくれる
僕にとっては天使みたいな存在だ…それにとっても美味しい
キレイで清楚だし（2回目）

神様…吉崎さんに料理を適量作る才能を与えなくてありがとう



…ん？

あれ…こんな時間まで待ってたんですか？
ななんかすみません…

「いえ…そろそろかなってさつき出たところですから…
今からなら料理…温めてきますね」

え…そんな悪いですよ…



「手間じゃないですし」

でも…

「……………あの…」

その代わりといってはなんですけど…」

はい



「ごはん…食べてるところ見ていいですか…？」

…え？

「その…やっぱり作った料理を誰かに食べて
もらってるところって見たいし…」

や…その…



「…………駄目…………ですか……？」

だ駄目じゃないけど……

「……………」

全然駄目じゃないです…



「よかった！」

「それじゃ持っていけますから 部屋で待っていてください
すぐに温めてきますね！」

はい…



タタ…パタン…

…な なんだかわからないけど押し切られてしまった…

………

………

………あ！

へ 部屋片づけなきゃ…!!

はー…

「ちそうさまでした…おいしかった！」

「ほんと？よかったあ…」

「やっぱり男の人ですね」

「食べっぷり見てて気持ちいいです」



そそろいですか？

「はい♡」

じー

じー♡

うう…見られると照れくさい…



それにさつきから…

なんだろ…

この頃頑張りすぎで疲れてるのかな…

なんか妙に意識がそっちに…

うう…駄目だ！

なんか話題…話題…



でも吉崎さんってほんとに料理上手ですよ

普段外食かコンビニ弁当ばかりで味気なくて

だからたまにもらえるおすそ分けすっごく楽しみで…

「ふふ…最近遅くまで頑張ってますよね」



「でも私の料理で少しでも

元気になってくれてたなら嬉しいです」

て…天使だ…

「それに…」



「笹塚さんが食べるところ…可愛いし…♡」

じっ♡

え…?

「……」

え…え…え…?

♡♡♡



「あの…体…熱くないですか？」

ふふっ…

…………え…あ！

ちよちよつと部屋暑いですよね
エアコン入れましょうか…





「いえ…」

すっ…

すっ♡

ズoooooooo

さすっ…

あっ…え…

「ごうちのことです…」

こすっ…♡こすっ…♡

あ…よっ…吉崎さん…!?

さすっ♡

さすっ♡



「こっこ…すごく…固くなってます…よ…」

こすっ…♡こすっ…♡

いっ

いや…それはそのっ…

今…吉崎さんが刺激してるからっ…

すっ

すっ

っ

「うそ…

ずっとここ…苦しそうにしました…」

こすっ…♡こすっ…♡

や…その…うあ…

「その…男の人って疲れてると
た溜まるって聞きますし…」

わ私でよければ…楽に…しましょうか？」

すい

すい♡

い

じいー…ずりっ

ぼろんっ♡

あっ…

「すーい…ぐっ♡」

えっ…

なんだこれ…僕…こんなに…

ぽろん♡

ふわ♡



「こっ…凄く硬くなってるしそう…」

にぎっ…♡

ほち♡

はち♡

にぎっ♡

も…お奇を…



さわ…さわ…❤

はあ…はあ…
でも…僕たち…そういう関係でもないのに…

「……………」

さわ さわ





わわっ...ち 近っ...

「笹塚さん...」

ずいっ...ずいっ...

ずいっ

ぐん

ずいっ

ぴとっ♡

「このまま…スツキリしたく…ないですか…?」

う…う…う…

ぴと

すー♡

すー♡

「大丈夫です

私が笹塚さんのこと…ちゃんと気持ちよくします」

じくっ…



「普段の仕事の疲れと一緒に出し切っちゃえば…
きつと…凄くきもちいいですよ…♥」

んん♥

んん♥

んん♥

はあっ………はあっ……



……未だに信じられない……夢……じゃないよな
昨日……吉崎さんに……僕……

ってあれっ？



よ 吉崎さん…!?

「あ…」



「……………」

……………

き
気
ま
ず
い
…

何
を
話
せ
ば
い
い
ん
だ
…



「ああの…」

はい…



「昨日は…その…」

笹塚さんの気持ちも考えずに あんなこととして…
本当にごめんなさい…」

いや…その…

うう…あらためて思い出すとなんかすごく恥ずかしい…



「あのだから…これ…」

すっ

？これ…？

「こんなの…お詫びになるわけないのはわかってるんだけど…
私こんなことしかできなくて…」

あ…また何か作ってきてくれたのかな…



「笹塚さんが前好きだって言ってた…
ビーストロガノフ…」

……

…んん!?

「…?」



.....あ！

そういえばいつだか好きな料理を聞かれた時 何も思いつかなくて
適当に「名前が何か強そうで好き」って言った気がする...

「.....?.....?」

古崎さん...僕が言ったそんなこと
覚えててくれたんだ...



.....

あの…吉崎さん

「…はい…」

その…昨日はびっくりしましたけど…

「………」



嫌じゃなかったというか…その…

「…」

んんん♡



だから…その…

こんなに気を使ってもらわなくて大丈夫ですよ

「よかったあ…」

ほー

すごくホッとしてる…ホントに心配だったのかもしれない…

僕もここで話ができよかった
なんだか落ち着いてきた…



あでも料理ありがとうございます

今日も今からごはんだったんでホントありがたいです。

はは…

ビーフストロガノフってどんな味なんだろう

今更だけど食べたことないからちよつと楽しみ…



「あ、今からでしたら…」

…ん？



「…料理…すぐに温めてきますね…」

え…

「だからその…今日も…」



「食べてるところ…見てもいいですか…？」

あ…

「今日は…何もしませんから…ね？♥」

この流れは…







「はあ…はあ…♡」

「完全に脱がしちゃいました…
もう逃げられませんよ…♡」

にゅにゅ♡

はあ♡

はあ♡

よ古崎さんっ!?



「大事なところが全部見えてます…♡」
じいー♡

うんうん…

「あ今日は少し皮被ってるんですね…」
かわいい…♡



「匂いは…すううつ♡」

えっ…ちよっ!!?やめっ…

「…♡…笹塚さんのえっちな匂いがします♡
もっ…嗅がせてください…♡」





「はむっ…♡」

むきっ♡

ひゅっ!?

ほむ♡

おっ♡

「ん……♡」

もつと濃い匂いがする……♡」

よ 吉崎さん……

むわ♡

「これで……笹塚さんの大事なところ……
全部 丸見えにしちゃいました……♡」



「じゃあ…♡」

も…も…♡

ふ…ふ…!

「…今日もいっぱい…ぴゅっぴゅっしようね?♡」

んっ♡

むにっ♡



もにゅっ…♡もにゅっ…♡

う…っあ…♡

とろっ♡

「…♡

まだこつちを揉んでるだけなのに…

エッチな汁があふれてきました ふふ…♡」

しゅっ♡

んっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

「味は…ちゅうっ…じゅるるっ♡」

うっっ…!?

ほじっ♡ちゅっ…♡ほじっ♡

ふあっ!?!♡んっ…♡

「んっ…♡ほじったらほじった分だけ出てきます♡」

ちゅっ♡

ほじ♡

ほじ♡

んっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

「ちゅぱっ…♡」

うっ…♡ はあ…はあ…

「はあ…すごいエッチな味…♡」

ちゅぽ♡

「あの我慢…できないので…

このまま…食べちゃいますね…♡」

え…？ た…たべ…!?

ん…♡

ん…♡

ん…♡

ちゅ♡

ちゅ♡



「あむ…♡」

ふふ…♡

う…あ…!?!♡

ひゅ

ふふ

ひゅ

ふふ

ふふ



隣人の吉崎さん(仮) ♡ 二日目 前半

んっ…!?♡んっ!?♡んっ…!?♡

どくつ♡どくつ♡

「んふっ…♡」

昨日も出したのに…凄い量…♡
ぢゅうつ…♡…ぐくつ♡…ぐくつ♡」

ちゅうつ…♡…ぐっ♡…ぐっ♡」



♪



はあ—っ♡—はあ—っ♡
な…なんだこれ…ぼ 僕どっちでイって…

ぐぽっ♡
うあっ…♡

「……」
じいっ♡



すっ…

「あの…このまま…続けさせてもらいますね」

ずい♡

ペロ♡

はあ…はあ…

え…?

がっ♡

がっ♡

すっ♡





「……失礼します♥」

あ……

のしっ♥

のしっ

「笹塚さん…」

すっ♡

よ 古崎さん…



「私今日…」

下着…つけずにきました…」

すっ♡

え…

ぐっ♡

ぺら♡

すり…すり…♡

「はしたなくてごめんなさい…」

でも…このまま待つても…」

私のこと襲ってくれなさそうだから…」

すっ♡

すっ♡

とろ♡



「私が笹塚さんのこと……..
襲っちゃいますね……♡」

はぁ♡

はぁ♡

どき♡

ぎゅ♡

どき♡





隣人の吉崎さん(仮) ♥ 二日目 後半 1

じゅわん♡じゅわん♡

じゅわん♡

「あっ♡んあっ♡さ 笹塚さんっ♡」

じゅわん♡

かっ♡

かっ♡

はあっ…はあっ…
ぱんっ♡ぱんっ♡

ぱん♡

ぱん♡

ぱん♡

が♡

が♡

「んっ♡あっ…あっ♡」



「んうつ♡はあ♡す♡ご♡い♡です♡つ♡」

すゅー♡

はあ…はあ…

あ 吉崎さんのお尻の穴…

ぱん♡

ぱん♡

ぱん♡



見たい…

むきっ♡

んっ♡

「あっ!?♡さ 笹塚さんっ!?♡

そそんなところ…見ないでくださいっ…」

…恥ずかしがってる古崎さん かわいい…

んっ♡

んっ♡

んっ♡



吉崎さんのこころ…もつと良く見せてください…

むきっ♡

「い…いやあ…♡」

吉崎さんみたいなキレイな人のお尻
もつと見たいです…

「っっっ！♡♡♡」



どちっ♡どちっ♡どちっ♡

「あんっ!♡はうっ!♡んう!♡」

吉崎さんのお尻の穴:凄くかわいいですよ

「いやっ!♡さっ!♡笹塚さんっ!♡んあっ!♡」

見られて興奮してるのかな:さっきよりもずっと激しい

やばい:僕も無茶苦茶興奮してきた:

出る:出るっ:





隣人の吉崎さん(仮) ♡
二日目 後半2